

モーたまらんわ〜

酪農家を襲う

価格高騰

配合飼料

諸資材

輸入粗飼料

燃料

解決策は

七円/kg以上の乳価値上げ

加えて……!!

平成二十年度の再来の如く配合飼料価格は上昇を辿り、今回は、これに加えて輸入粗飼料の価格上昇も重なり、広酪の組合員からは悲鳴が届いています。

この窮状を克服するため、組合員自らによりまず経営努力は勿論のことですが、乳価値上げに加えて、広酪の生乳受託販売に伴い控除する受託販売手数料や、消費拡大負担金など各種拠出金等の諸費用の負担軽減の実行に期待が寄せられています。

三月八日、広酪は活性化推進委員、酪農家で構成する地域の任意組織団体の代表者に出席を求めた合同会議を開催したところ、乳価交渉に関する情報提供への指摘がありました。

今回、酪農現場を襲う情勢、乳価交渉の取り組み等の考えを整理してみました。

この記事に関連する質問やご意見がありましたら、本誌裏面に記載のメールアドレスにお寄せ下さい。

一・酪農家及び関連組織に襲いかかる窮状は？

は一ドル九十九円台に達しました。昨年十二月の衆議院議員選挙前の七十四円台から二十五円の円安が進行しています。

酪農経営を取り巻く環境は、安倍総理のTPP参加表明、アベノミクスに寄り添う形で日銀による金融緩和策から派生する円安により輸入品価格は上昇を続け、四月十一日現在の為替相場

この円安以前に小麦や大豆など世界穀物相場の上昇もあり、他の独占的製造販売業界においては、既に四月より商品の値上げ改定を行い消費者にコスト上昇分の負担を求めています。

二 消費者に向けた
理解醸成の発信

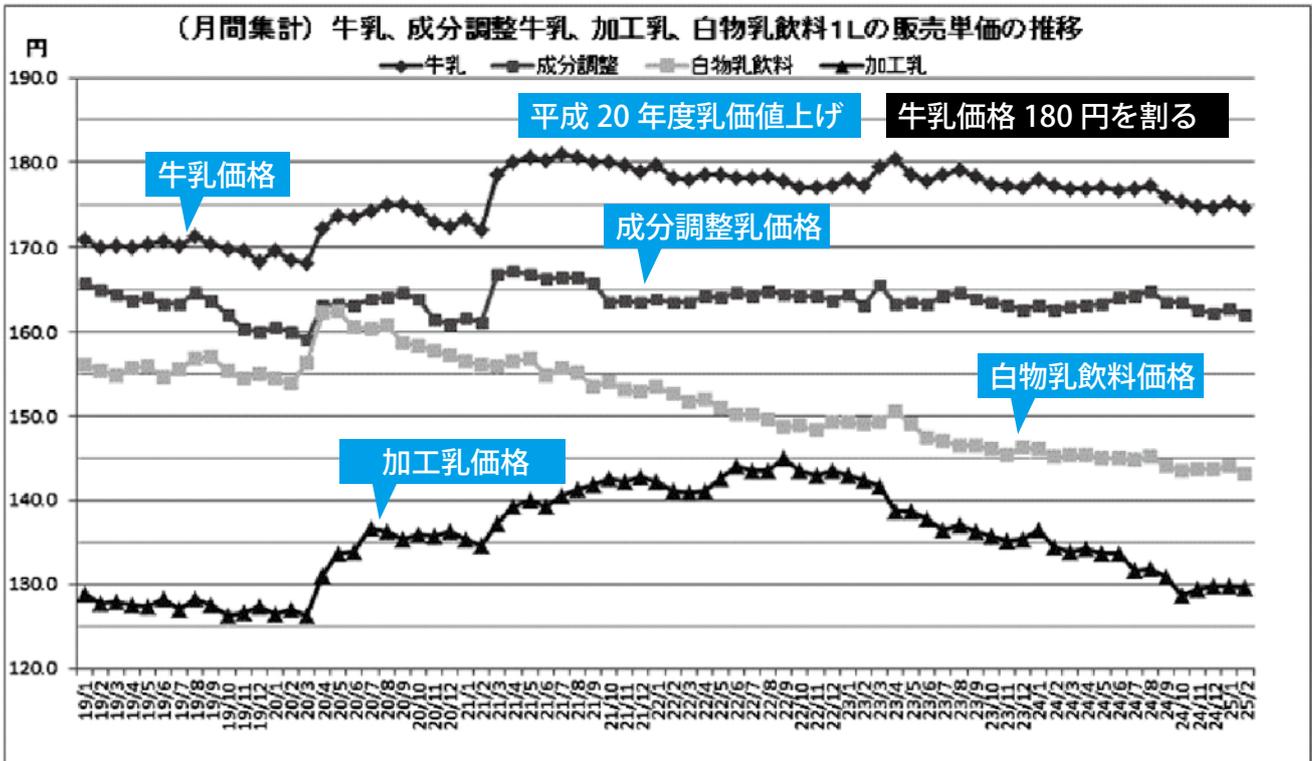
独占的な商品を製造販売する業界においては、輸入原材料等の調達品が値上げとなれば、流通業界、量販店等に価格の値上げの通知がされ、スムーズな販売価格への転嫁が行われ、買い求める消費者がこのコストアップ分を負担する構造になっています。

平成二十年度の世界穀物相場が高騰した時もそうでありました。五年前を思い出して下さい。

これに反して、酪農家が営む生乳生産において、輸入穀物、いわゆる配合飼料に依存せずして飼養管理を行うことは、乳用牛の体調維持管理の面からも困難と云えます。

こうした事情からも、酪農家の手の届かない外的要因によるもので、実質コスト上昇の価格転嫁について、消費者の皆さまに理解を願うばかりです。

組合員からは、広酪として組織を挙げての積極的な乳価値上げへの実現に期待を込めての叱咤激励も届いております。



広酪は三月、理事である岩竹重城氏に登場願って、RCCラジオを通じて「牛乳の適正な価値と値段を考えて・・・」と意見CMを行いました。消費者側の家計生活を斟酌すると、CMから理解は得られるものの、実状は「給料も上がらない中、毎朝の食卓必需品の牛乳の値上げは、勘弁してほしいわね」との声も聞きます。

Jミルクがホームページに公開する「販売単価推移」からみると、1L牛乳の価格は百七十円から百八十円台の幅で推移しています。

(牛の鳴き声)モー

酪農家の岩竹重城(いわたけ しげき)です。
牛乳を飲む時 値段について考えてみて～や。
わしらは餌代が たこうなる中で
おいしい牛乳を飲んでもらうために
毎日 がんばってるんじゃがの～。

(ナレーション)牛乳の適正な価値と値段を
一緒に考えてみて下さい！
広島県酪農業協同組合



みんなも一緒になって
しっかり伝えてね!



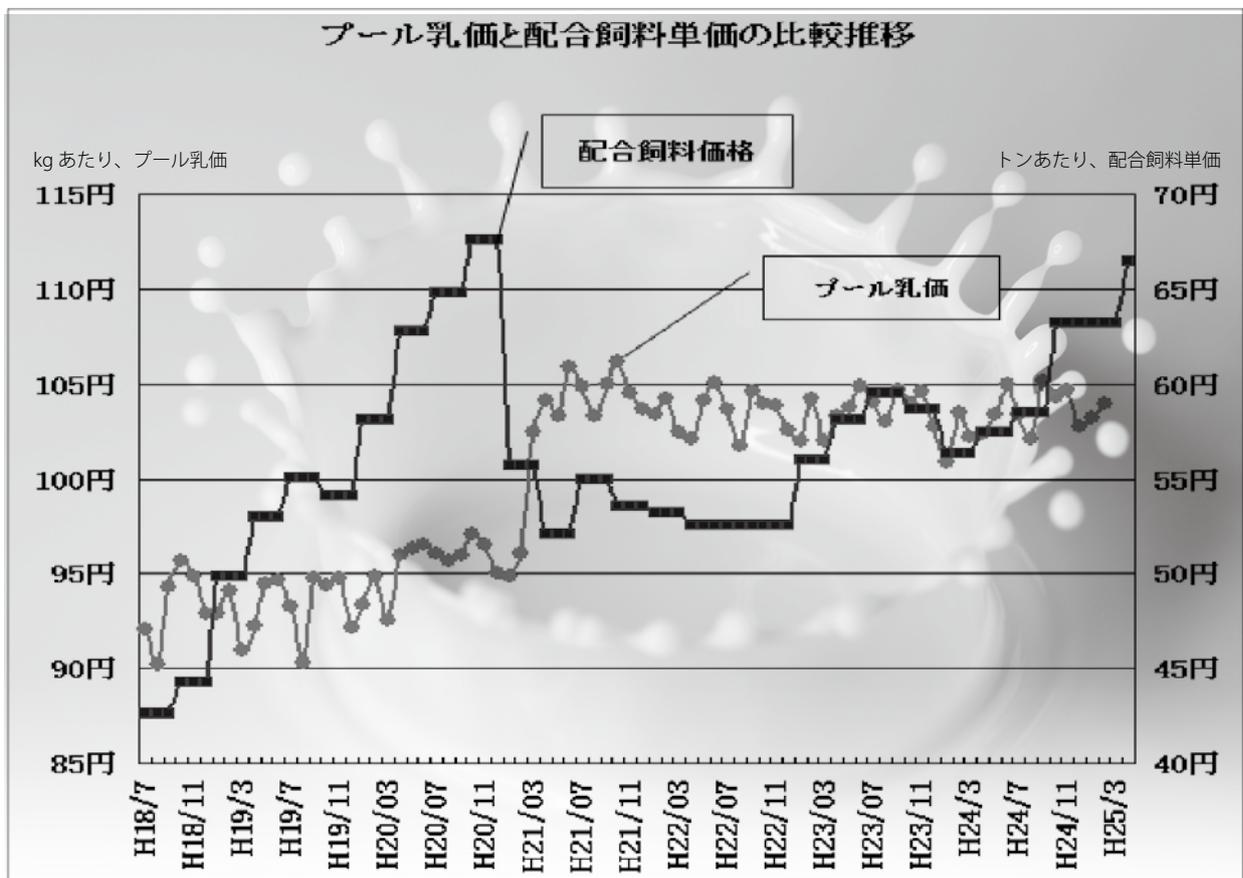
三 果たして「乳価値上げ」は??

乳価交渉は、広酪が会員として属する中国生乳販連(指定生乳生産者団体)がその責任を担っています。この実現の鍵は、乳業者の理解と量販店、消費者への理解を得ることにあります。これが、これには「生・処・販」が一体となつて、理解醸成に取り組むことが必要と考えます。

同連は、「乳価交渉の要求水準」を設定しましたが、その概要は以下のとおりであります。ここでは、要求金額の根拠掲載は省略します。

①平成二十五年度乳価交渉に向け た要求水準を設定

中国生乳販連は、一月三十日開催の生乳受託販売委員会・理事会で平成二十五年度生乳取引交渉への取り組み方針を決定し、平成二十五年度第1四半期配合飼料価格が決定するまでの間は、実質五円/kgの水準で交渉に入り、大手乳業者並びに地場・中小乳業への具体的説明と理解を求めてきました。



三月二十八日開催の理事会で、前述の要求水準に新たに試算されたコスト上昇分(第1四半期配合飼料価格)を合わせ、学乳向けを除く飲用並びに醗酵乳向け用途に対して値上げ要求を七円/kgの水準とするよう改めました。今後、この額面をもって交渉にあたることとしています。

②プール乳価と配合飼料単価の変動推移

上記のグラフは、プール乳価と配合飼料価格の変動推移を比較したものです。

近年の配合飼料価格は、平成二十年度にピークに達し、プール乳価を上回る状況になっています。

単純に収入よりも費用が多い「逆ざや現象」となっています。

特効薬は乳価値上げが実現し、この逆ざや現象が改善され、これが酪農経営の存続維持に結びつくものと考えます。





乳価値上げを求めた広島でのデモ行進

四 広酪は何をすべきか！

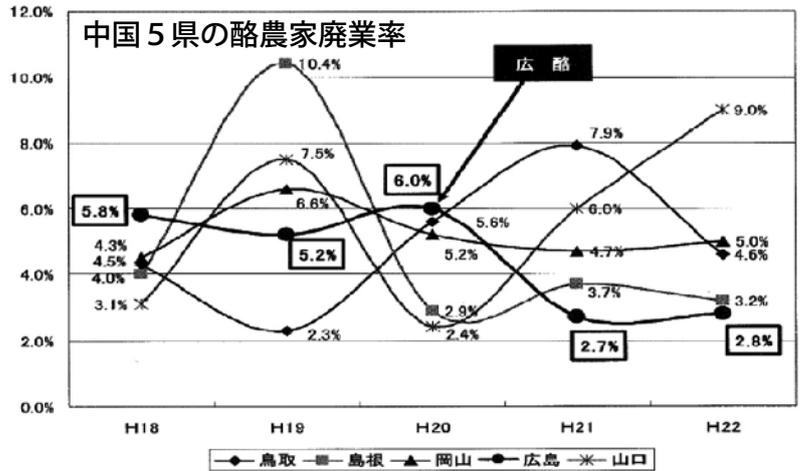
平成二十年度は、こうした酪農窮状から乳価値上げを求める行動等を行うとともに、広酪では「ホップ・ステップ・ジャンプ」と称した酪農経営ふんばり資金創設による融資、3M事業の実行、越年対策資金の対応のほか、地方行政に対しては、国の緊急経済対策支援の実施に伴う酪農家への支援を求める行動等に積極的であったり、組合員の経営廃業率は、中国生乳販連傘下会員の中で、最低位に抑えることが出来ました。

平成二十五年度の窮状打開にあたるには、まずは乳価交渉における要求水準を満たすため、中国生乳販連など関連団体と連携して知恵を出し積極的に

■平成 24 年度「酪農経営収支決算」

(単位：千円)

収入	金額	収入構成率(%)
①販売金額	40,721	97.0%
a 生乳販売金額	33,512	79.8%
b 家畜販売等金額	7,209	17.2%
②家事消費金額	157	0.4%
③雑収入	1,092	2.6%
(X) 収益合計	41,970	100.0%
経費	金額	経費構成率(%)
①租税公課	490	1.3%
②種苗費	1	0.0%
③素畜費	636	1.7%
④飼料費	17,491	46.9%
⑤農具費	134	0.4%
⑥農薬衛生費	1,425	3.8%
⑦諸材料費	1,370	3.7%
⑧修繕費	444	1.2%
⑨動力光熱費	1,399	3.8%
⑩作業用衣料費	104	0.3%
⑪農業共済掛金	1,902	5.1%
⑫減価償却費	4,443	11.9%
⑬荷造運賃手数料	3,413	9.2%
⑭雇人費	1,107	3.0%
⑮利子割引料	434	1.2%
⑯地代・賃借料	1,000	2.7%
⑰土地改良費	84	0.2%
⑱廃牛売却原価	1,026	2.8%
⑲事務通信費	187	0.5%
⑳図書費	101	0.3%
㉑固定資産除却損	13	0.0%
㉒雑費	80	0.2%
(Y) 小計①～⑲	37,284	100.0%
㉓経費から差し引く育成費用	1,301	
㉔計=(Y)-㉓	35,983	
(Z) 差引金額(X)-㉔	5,987	
㉕専従者給与	960	
㉖青色申告特別控除前の所得金額(Z)-㉕	5,027	所得率 ↓
㉗青色申告特別控除額	650	
㉘所得金額㉖-㉗	4,377	10.4%



五 組合員の皆さんに
お願いしたいこと！

行動し、かつ、組織運営にかかる諸経費、一般管理費の削減実行により、乳価構成に含まれる各種の費用負担の抑制を図ることが重要として理事会の審議を深めています。

現在、経費抑制・削減に向けて各部門毎の見直し作業と検討に入っています。

飼料高となったからといって乳用牛への濃厚飼料等の給与量を削減するといった、単純な発想ではなく、「費用対効果」の点に注意した飼養管理のお願いをするとともに、組合員の酪農経営における飼養管理や繁殖管理等々、より一層の経営見直しで無駄の排除など、その実行に努めて戴きたいと考えます。

六 打開策は？

左記に酪農経営収支に関する資料を提示します。この収支は、購入飼料依存型の酪農経営者にかかる平成二十四年の収支決算を取り纏めた表ですが、この表から何を読み取られますか？

またこれに、過去の投資に伴う金融機関等からの融資があるとすれば、その返済額の程度も気になるところでもあります。

何れにしても、酪農経営を襲う現況の窮状かつ将来不安が払拭出来る打開策は、乳価値上げに速効性があるものと思えます。

最近、乳価値上げの言葉を耳にする機会が増えますが、昭和五十年代前半の飲用乳価百十八・二一六円/kgに復元が必要ではないでしょうか？

皆さんの考えを広酪までお寄せ下さい。